

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL 0736(64)2300

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花 き全般	アブラムシ類 ハダニ類 シロイチモジヨトウ オオタバコガ ハスモンヨトウ タバココナジラミ オンシツコナジラミ ミナキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並 やや少 並 並 並 並 並 並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病	並 並 並			
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並	カンキツ	ミカンハダニ	並
			果樹全般	カメムシ類	紀北： やや多 有田以南： 並

気象予報

1 か月予報（予報期間 9月22日～10月21日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >

【気温】 近畿地方



【降水量】 近畿地方



【日照時間】 近畿地方



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

10月	月平均気温 (平年値) (°C)		月降水量 (平年値) (mm)	
	和歌山	18.8	和歌山	122
潮岬	19.8	潮岬	244	

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月5半旬現在、8.3%（過去6年間の平均2.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。

② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。

③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。

④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上を古ビニルなどで覆って2週間以上密封し、タバココナジラミを死滅させる。

⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月5半旬現在、0%（過去6年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。

③ 種子伝染するので、多発ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月5半旬現在、0%（過去6年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月5半旬現在、0%（過去6年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 乾燥すると莢形成期以降に発生しやすい。

② 発生初期より防除を行う。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0.2頭）、和歌山市1頭（前年5頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。

② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周囲のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は11%（平成19%）、寄生葉率は1.1%（平成2.7%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は22%（平成25%）、寄生葉率は1.1%（平成4.5%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～4半旬の飛来数は、22頭（平成82頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。

② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬のナミハダニの発生ほ場率は11%（平成16%）、寄生葉率は1.1%（平成4.5%）、カンザワハダニは発生が認められなかった（平成発生ほ場率22%、寄生葉率4.7%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① キクに発生したナミハダニが移動するので、キクに近いほ場では特に発生に注意する。

3. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月5半旬の発生ほ場率は26%（平成30%）、寄生株率は5.3%（平成5.8%）と平成並であった。

② フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市8頭（平成28頭）、御坊市15頭（平成41頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月5半旬の発生ほ場率は11%（平成24%）、寄生株率は1.1%（平成3.4%）であった。

- ② フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市9頭（平年7.2頭）、御坊市2頭（平年4.6頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、また、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。
- 5. ハスモンヨトウ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は11%（平年37%）、寄生葉率は0.6%（平年2.9%）であった。
- ② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月5半旬の発生ほ場率は26%（平年34%）、寄生株率は3.7%（平年5.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市84頭（平年343頭）、和歌山市1146頭（前年1460頭）、御坊市31頭（平年461頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- 6. タバココナジラミ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は33%（平年38%）、寄生葉率は2.8%（平年10.0%）であった。
- 7. オンシツコナジラミ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は44%（平年37%）、寄生葉率は8.9%（平年5.2%）であった。
- 8. ミナミキイロアザミウマ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は67%（平年64%）、寄生葉率は17%（平年30%）と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ（「防除指針」参照）。
- 9. ミカンキイロアザミウマ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬現在、発生が認められなかった（平年発生ほ場率3%、寄生葉率0.7%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

II. 果 樹

<カンキツ>

- 1. ミカンハダニ**
- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県予察ほ場のウンシュウミカン「興津早生」での9月中旬のハダニの発

生は、無防除園、慣行防除園ともに認められなかった。

② 紀北（海南市下津）、紀中、紀南（田辺市以北）では、9月中旬の寄生葉率は10%（平年7%）とやや高いものの、発生園率は31%（平年33%）と平年並であった。

③ 10月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を抑制するために、同一薬剤を年間に複数回使用しない。

② 秋期の防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

（1）予報内容 発生量 紀北：やや多 有田以南：並

（2）予報の根拠

① 紀北地域のカキにおける9月中旬の被害果率は「富有」で13.5%（平年7.0%）、「刀根早生」・「平核無」で3.4%（平年0.5%）と平年より多かった。

③ 山林における当年成虫の発生量はやや少ないが、餌となるスギ・ヒノキの球果がやや少ないことから、果樹園への飛来はやや多くなると予想される。

（3）防除上注意すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。

② 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

④ 台風通過後一時的に増加する場合がありますので、飛来に注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ホームページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。